



たけた

市議会だより

NO.76

令和7年8月1日発行



竹田市議会

TAKETA Gikai News

- 代表質問 2~4
- 一般質問 5~8
- 予算特別委員会 8
- 議決結果 9
- 議会構成 10~11
- 市民との意見交換会 12

朝日の中のハイジ



令和7年第2回定例会は、6月2日から25日まで24日間の日程で開かれました。
6月10日、3会派の代表が代表質問を行いましたので、その内容を要約してお知らせします。



忠恕ユニット

阿南 智博

市長2期目の市政運営における重点施策について

Q 市民に分かりやすく、重点的に取り組む課題を3つ挙げるとすれば何か。

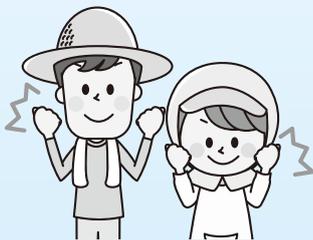
A 人口減少社会への対応、経済と産業の活性化、地域医療・地域福祉の充実が重要と考えている。

Q その3つの重要課題への具体的施策は何か。

A 人口減少社会への対応として、若者や移住者の定住促進のため、企業誘致の推進、地域資源や人材を活用した雇用創出に取り組む。中九州横断道路の早期完成を目指し、交通網や情報インフラを整備することで企業が進出しやすい環境を構築し、地域産業の多様化を図る。

産業の振興では生産額の拡大と担い手不足への対応が急務であり、ファーマーズスクールやスタートアップファームたけたなどにより、新規就農者支援を強化する。また、果樹生産拡大や高付加価値作物の生産基盤強化を図る。商工観光分野では事業縮小を防ぐため、外国人材の受け入れや、滞在交流型ツーリズムを推進する。

福祉分野では、通いの場や生涯学習の機会を充実させる。もしもの時に備え、人生の最終段階について考える人生会議を普及する。



阿蘇くまもと空港リニューアルや中九州横断道路の整備を見据えた振興策について

Q 阿蘇くまもと空港リニューアルやTSMCの進出などにより、令和6年の国際線の旅客数は倍増している。また、工事中の滝室坂道路も来年完成が見込まれ、竹田阿蘇道路も着々と整備が進んでいる。非常に大きなチャンスが訪れていると考えるが、インバウンド誘致や産業振興にどう活かすのか。

A 阿蘇くまもと空港は国際線の利便性が向上し、インバウンド観光の促進において、大きな追い風である。多言語パンフレット制作、海外の旅行者やメディア、インフルエンサーを招聘するファミトリップを実施予定である。また空港において引き続き観光プロモーション等を行い、訪問意欲を喚起していく。さらにインバウンド施策の長期的な方向性を検討する官民連携会議も立ち上げる。中九州横断道路の開通は新たな地域間交流の契機となる。周遊型観光ルートや広域観光圏の形成を図る。TSMCの経済波及効果を視野に入れた菊陽町との交流の場創出に向けたプロジェクトを準備中である。

用語解説

※ファミトリップ…自治体等が観光誘致を目的に外国メディア、インフルエンサーなどに現地視察してもらうツアー。

※インフルエンサー…SNS等で世間に与える影響力が大きく、ビジネスとして情報発信している人。



竹田阿蘇道路市民見学会

その他
質問

・第2次竹田市総合計画の基本理念について



なお、原稿は質問議員本人が執筆しています。



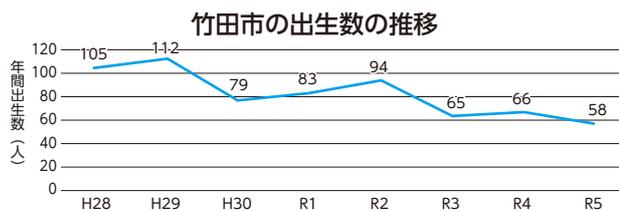
創生会

佐藤 美樹

人口減少対策について

Q 出生数の減少が続いている。解消に向けた考えは。

A 少子化対策として保育料無償化や高校生までの医療費助成など子育てで支援を行っている。定住促進に向け住環境整備や雇用促進を図る。また、若者同士の交流を促すイベントも開催するなど若年層のコミュニティ形成を支援し、持続可能な竹田市の実現を目指す。



Q 移住者増の理由をどう分析しているか。

A 若者や子育て世帯を対象として、生活の拠点づくりから就職までを支援する社会人インターンシップ事業が効果を上げている。また、移住支援サイトで情報発信を行っている。移住相談会やイベントに積極的に参加している。行政と移住定住支援センターが連携して丁寧に対応することで、移住後のミスマッチ防止に努めている。



「+build.(プラスビルド)」 竹田市への移住を考えている方に向けたWEBサイト

<https://taketa-iju.com/>



Q 移住者施策は近隣市町と競合である。補助金以外に竹田市をどうアピールするのか。

A 竹田市への移住希望者は豊かな自然や文化に惹かれ農業を志す方が多く、ファーマーズスクールで就農支援を行っている。就業支援のほか、地域運営組織と連携して移住者交流会の開催や生活相談体制を整備している。移住者のミスマッチを減らし、円滑な定着を支援する。

経済活性化の取組について

Q 企業誘致について、市長任期4年内の方針は。工業用地や人材の準備など受け入れ体制はどうか。

A 若年層の安定した雇用環境を整備するために企業誘致は重要である。企業立地促進条例に定める助成措置を活用して、製造業のほか情報通信業など多業種の誘致を目指す。工業用地の調査や学校跡地など遊休地活用を進める。人材不足対策では、若年層向け説明会や外国人技能実習生の相談窓口を整備するなど体制を整える。受け入れ環境を強化し、企業誘致を進める。

Q 観光振興にむけたターゲットや入込目標などのビジョンは。

A 国外の主要ターゲットは欧米豪地域など。国内では福岡、熊本の30代後半から60代前半の文化自然志向の高い層を呼び込む。令和9年度には300万人の観光入込客数を目指し、プロモーションを行う。



その他
質問

- ・ 農林業施策について
- ・ 第2次竹田市総合計画について



前進の会 Q 工藤 忠孝

土居市政の総括と今後の展望について

Q 具体的な成果を挙げつつ、一方で道半ばであった点や新たに認識した課題について首長としての自己評価と客観的な分析をどう捉えているか。

A 就任直後は、新型コロナウイルス感染症の影響により、市民の暮らしを守る政策を展開した。具体的にはワクチン接種の推進による感染予防対策、経済再活性化策としてプレミアム付商品券の発行を行った。一方で、これまでの大型事業の債務返済が重なり、新たな事業の実施に制約を受ける厳しい財政状況にある。



Q 2期目の市政運営における最重要課題について、市民の声や議会での議論を踏まえ、どのような点を2期目への教訓とされるか。また、その政策を通じて竹田市をどのような方向に導きたいのか。

A 人口減少社会の現実を受け止め、市民が安心して暮らせるまちづくりの推進とともに第2次竹田市総合計画に掲げた、「ひとが輝き、未来へつなぐ、いのち溢れるまち『竹田』」の実現に向け、整合性を持った政策で竹田市をより豊かにしていきたい。



第2次竹田市総合計画

持続可能な財政運営に向けた戦略について

Q 公有財産の有効活用とコスト削減について、保有する公有財産の全体像と維持管理に係る経費は。

A 保有する建築物は311施設。令和5年度の決算では維持管理経費が約20億円で光熱費などの高騰や老朽化に伴い、今後も同じ施設数を維持すれば経費の増加が予想される。

施設分類	施設例	延床面積(m ²)	施設数(施設)
学校教育系施設	32.4%	幼稚園・小中学校・調理場	82,266 27
スポーツ・レクリエーション系施設	13.1%	各運動公園・各温泉施設	33,167 40
住宅系施設	12.5%	桜団地・桐迫住宅等市営住宅	31,736 32
行政系施設	8.5%	庁舎・消防本部・消防団詰所	21,682 45
その他施設	7.5%	旧小中学校・旧南山荘	18,959 31
社会教育系施設	6.7%	図書館・各分館・各公民館	17,066 20
産業系施設	6.5%	道の駅・農産加工所	16,541 43
市民文化系施設	5.9%	総合文化ホール・各集会所	14,878 33
供給処理系施設	3.5%	衛生センター・清掃センター	8,878 15
保健・福祉系施設	2.4%	社会福祉センター・診療所	6,162 8
子育て系施設	0.7%	各保育園	1,912 5
公園系施設	0.3%	おたまた公園・天空の展望公園	728 12
合計		253,975	311

【参考】竹田市公共施設等総合管理計画(令和4年3月改定)から抜粋



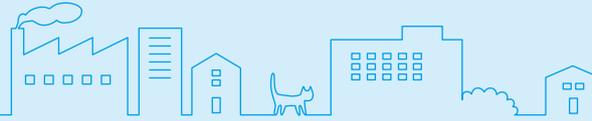
地域医療体制の充実について

Q 市民の健康を守るための医療提供体制について、現状の課題認識と今後の具体的取組は。

A 医療現場でも医師や看護師などの医療人材確保が困難となっている。コロナ過以降、医療機関の経営が厳しい状態である。こうしたことを踏まえ、6月4日に開催された全国市長会でも経営が厳しい医療機関への支援について要望書を国に提出した。市民が住み慣れた地域で安心して暮らすためには、どの地域でも適切な医療を受けることができ、安心して受診できる環境を提供していくことが重要である。地域医療を守るために、市長会を通じて国や県に要望を重ね、竹田市医師会と連携を図りながら大分県医療政策課と豊肥医療圏の拡充に向け協議を行っていく。

その他質問

- ・地域資源を生かした交流・関係人口の創出について
- ・高齢者福祉、子育て支援の充実について



6月10日・11日、6人の議員が一般質問を行いましたので、その内容を要約してお知らせします。なお、原稿は質問議員本人が執筆しています。



賀籠六 めぐみ

竹田市立子ども診療所再開に向けた取組について

Q 医薬品の確保は、再開に当たって一番初めに取り組むべき手続きだったのではないかと。

A 5月に薬剤師会を数回訪問した際に、休診や再開について、これまで薬剤師会との連絡が一切取れていなかったことの指摘を受けた。薬剤師会をはじめとする関係諸機関との連絡体制を密にとる必要があるということに改めて認識した。今後、このようなことのないように体制整備に努める。

Q 竹田市全体で理解を得るための場をいつ、どのように設定するのか。

A 再開後、現状分析をしっかりとした上で、中長期的なあるべき姿をお示しし、答申でご指摘いただいたとおり、議会や市民の皆様から多くのご意見をいただけるよう取り組む。

※竹田市立子ども診療所は令和7年7月1日(火)に再開しました。

投票率向上に向けた取組について

Q 投票時に支援が必要な方へ「投票支援カード」導入の考えはないか。

A 導入している自治体で課題も見られるので、導入に向けて調査・研究しているところである。投票所内における補助的なコミュニケーションツールとして、有効活用できるように周知方法を含め、導入を進めていく。

とうひょうしえん 投票支援カード

投票にお手伝いが必要な方は、このカードに書いて入場券(はがき)と一緒に投票所の係員に渡してください。

あなたがしてほしいことを選んでください。

- 投票用紙に代わりに書いてほしい(代筆してほしい)。
- そのほかの手伝ってほしいことを書いてください。

- (例)
- ・声をかけてゆっくりと誘導してほしい。
 - ・手をつないで案内してほしい。
 - ・候補者名を読んでほしい。
 - ・コミュニケーションボードを使ってほしい。

病気やケガ、その他の事情によって投票用紙に文字を書くことができない方に代わり、投票所の係員がご本人の指示どおりに代筆します。

ご本人の代わりに、投票所の係員が投票用紙に書くことは法律で認められています。

投票所の係員以外の家族や同行者が代わりに書くことはできません。

総務省HPから(静岡県長泉町の例)

その他質問

・「農業産出額大分県一」維持のための施策について



🗣️ 佐藤 市蔵

竹田市立こども診療所について

Q 再三の再開延期をどのように説明するのか。

A 検討委員会の答申を受け、5月の大型連休明けの再開予定を目指したが、看護師等の募集も思うような応募がなく、看護師を採用出来たのが5月1日。同日に竹田市立こども診療所運営委員会を設置し、5月13日の第1回運営委員会の中で診療体制の見直しなどについて協議した。その中で医師から診療報酬の改定の確認に時間が欲しいという申し出があり、再開予定日については、5月19日に再協議することとした。しかし、全国的な医薬品不足の中で確保のめどが立たなかったことから再開日を発表できなかった。再三の延期をしてきたことは、市として反省し市民の皆様にお詫びを申し上げる。早急に再開できるよう努めているので再開日が決

定次第、市民の皆様にお知らせする。

※竹田市立こども診療所は令和7年7月1日に再開しました。

Q 答申では医師2名体制が望ましいが、財政的理由から1名とした。現医師が事故等で診療できない場合の想定とその対応は。

A 安定的に運営するには2名体制が望ましいが、医師不足や財政的にも負担となる。代診医の確保も難しい状況で現医師が入院等した場合、現状では休診と考えている。



竹田市立こども診療所

その他
質問

- ・獣害対策について
- ・小中学校の統合と学力テスト等について



🗣️ 池見 傑

移住・定住への支援体制について

Q マッチング事業等を利用して就職し、市内へ移住する場合の支援は。

A 社会人インターンシップ参加企業に就職をして、県外に5年以上居住されている方が移住する場合の支援として、39歳以下で単身者には60万円、世帯に対しては100万円を支給している。18歳未満の子どもへの加算もある。条件には自治会への加入が必須である。



社会人インターンシップ事業

自治会の再編と地域の維持について

Q 地域コミュニティの実情と今後の取組は。

A 令和2年度から3地区の地域コミュニティ組織を設立した。モデル地区の活動を検証し、地域コミュニティ形成ビジョンを策定。総合政策課内に地域力創生係を新設し、専門職員を配置して地域運営組織設立までの伴走支援をおこなう。

Q 自治会活動の負担軽減のため回覧板等の見直しはできないか。

A 市報以外の配付文書を極力減らすことに取り組んでいる。ケーブルテレビやホームページの活用も行っているが、タブレット等の機器が苦手な方もいるので紙媒体の広報に理解と協力をお願いしたい。



その他
質問

- ・持続可能な農業について



熊野 忠政

防災対策について

Q 防災意識の向上、防災対策についてどのような取組を行っているのか。

A 総合防災マップの更新や、市報において災害への備えについて掲載し、周知啓発をおこなっている。また地域での防災訓練、防災パトロールを実施している。令和7年度、市民が速やかに防災情報を得られるよう防災情報伝達用IP告知端末の更新と、防災アプリの導入を予定している。

Q 避難所の環境改善に向け、移動式トイレやキッチンカー等を導入してはどうか。

A 昨年末に、国の補助制度が創設され、購入費用に対し2分の1の補助が受けられるようになった。県の運用状況を見ながら、購入の必要性を判断する。

Q 指定避難所の約半数が耐震化されていない状況であり、市の施設も含まれている。今後の耐震化をどう進めていくのか。

A 優先的に開設される18か所の指定避難所のうち、4か所の市の施設については、耐震改修や指定避難所としての見直しなども視野に入れて、市が責任を持って対応する。



令和6年度豊肥地区総合防災訓練(総合運動公園)

その他
質問

・中九州横断道路(竹田阿蘇道路)について



上島 貞子

竹田市立こども診療所問題について

Q 医師の待機場所の処遇については、労働環境の観点から適切な配慮がなされなかったのではないか。

A 復帰後の執務場所については、当初、保険健康課の執務室を考えていたが、医師から職員や来庁者など、人目を気にせず執務が出来る環境を希望する旨の申し出があったため、本人の希望にそった場所を示し、1階の会議室を執務場所とした。

Q 診療所再開にあたり、市当局は十分な準備と対応をしているか。

A 診療所が休診に至った問題の1つに勤務するスタッフの負担が過大であり、労務管理が徹底されていなかったことが挙げられる。スタッフの負担軽減のため、看護師と医療事務を拡充す

るための募集に努めた。医師と相談しながら早急な対応を図ってきたが、未だ再開できていないため十分な状況とはいえない。

※竹田市立こども診療所は令和7年7月1日火に再開しました。

小中学校の給食費無償化について

Q 物価高騰が続く中、保護者の経済的負担を考え、無償化を検討する考えがあるか。

A 現時点では、実施は見送っている。食材は170%高騰している。保護者の経済的負担を考え、児童生徒の給食費は据え置きにし、高騰分は市が負担している。給食費無償化は、保護者の経済的負担を軽減する観点から有効な施策の1つだと認識している。





山村 英治

公立中学校部活動の現状と課題について

Q どのような部活動を地域移行する計画があり、現状はどのようになっているか。

A 令和5年度から3年間を改革推進期間として、休日の部活動を段階的に地域移行している。令和5年度の吹奏楽部に続き、令和6年度からは、陸上競技と剣道が地域クラブ活動として実施できている。令和7年4月からバレーボール部がスタートし、8月からは野球の地域移行を予定している。

今後は指導者などの受け皿を探しつつ、卓球、ソフトテニス、バスケットボールについて休日の部活動地域移行を検討している。

Q 地域移行のクラブの状況をどのようにして捉え、学校側からの指導をどのようにしていこうと考えているか。

A クラブの運営は指導者の方針で進められるものだと考えている。学校とクラブをつなぐ役割として、教育委員会は部活動地域移行コーディネーターを配置して、地域クラブと学校をつなぐ役割を果たしていく。

用語解説

※部活動地域移行コーディネーター…部活動の地域移行を円滑に進めるための橋渡し役として、関係機関との連携・調整を行う。



その他質問

・竹田市立こども診療所の課題について



第2回定例会 予算特別委員会 令和7年度 一般会計補正予算



6億8,607万円3千円増額 (総額:220億9,087万3千円)

令和7年第2回定例会・予算特別委員会が6月17日に開催され、付託された令和7年度一般会計補正予算(第1号)を慎重審査した結果、全会一致で可決されました。

補正予算の概要

歳出

- ◆総務費
バス・乗合タクシー料金改定に伴う事業検証調査及びコミュニティバス更新費用 1,628万2千円
公共施設の除却費 1億円
- ◆民生費
介護サービス提供体制確保事業 1,133万5千円
総合社会福祉センター照明LED化等改修事業 1,302万円
保育士等確保対策事業 420万円
- ◆衛生費
葬祭場整備事業の物価スライドに伴う工事請負費の増額分 3,181万8千円
- ◆農林水産業費
道の駅すごう改修事業 2,684万9千円
おおいた和牛生産振興対策事業 2,350万円
県営土地改良事業負担金 3,165万円
有害鳥獣捕獲奨励金事業 3,299万5千円
- ◆商工費
SNS等を活用した観光客誘致等対策事業 1,279万9千円

- ◆土木費
市道改良事業 1,500万円
JR豊後竹田駅前周辺整備基本計画策定事業 1,280万4千円
- ◆教育費
中央学校給食共同調理場照明LED化事業 2,549万5千円

歳入

- 分担金及び負担金 18万8千円
- 使用料及び手数料 905万3千円
- 国庫支出金 6,712万2千円
- 県支出金 4,193万7千円
- 財産収入 680万9千円
- 繰入金 2億8,923万円
- 諸収入 3,093万4千円
- 市債 2億4,080万円

議決結果

令和7年

第2回定例会

令和7年6月2日～25日

議案等の議決結果

● 条例案

議案番号	件名	結果
議案第70号	竹田市職員の給与の特例に関する条例の全部改正について	可決
議案第71号	竹田市長及び副市長の給与に関する条例及び竹田市教育委員会教育長の給与及び旅費に関する条例の一部改正について	可決
議案第72号	竹田市職員の給与に関する条例の一部改正について	可決
議案第73号	竹田市竹田温泉施設花水月条例の一部改正について	可決
議案第74号	竹田市温泉交流施設荻の里温泉条例の一部改正について	可決
議案第75号	竹田市白丹温泉館条例の一部改正について	可決
議案第76号	竹田市久住高原荘条例の一部改正について	可決
議案第77号	竹田市長湯温泉療養文化館「御前湯」の設置及び管理に関する条例の一部改正について	可決
議案第78号	竹田市長湯温泉「長生湯」の設置及び管理に関する条例の一部改正について	可決
議案第79号	竹田市長湯温泉クアハウスの設置及び管理に関する条例の一部改正について	可決
議案第80号	竹田市体育施設条例の一部改正について	可決
議案第83号	竹田市特別職の職員で非常勤の者の報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正について	可決

● 予算案

議案番号	件名	結果
議案第56号	令和7年度竹田市一般会計補正予算(第1号)について	可決
議案第57号	令和7年度竹田市立子ども診療所特別会計補正予算(第1号)について	可決
議案第58号	令和7年度竹田市長湯温泉療養文化館特別会計補正予算(第1号)について	可決
議案第59号	令和7年度竹田市介護保険特別会計補正予算(第1号)について	可決
議案第60号	令和7年度竹田市浄化槽整備推進事業特別会計補正予算(第1号)について	可決
議案第61号	令和7年度竹田市水道事業会計補正予算(第1号)について	可決
議案第62号	令和7年度竹田市簡易水道事業会計補正予算(第1号)について	可決
議案第63号	令和7年度竹田市農業集落排水事業会計補正予算(第1号)について	可決

● 一般案

議案番号	件名	結果
議案第64号	竹田市副市長の選任について	同意
議案第65号	竹田市監査委員の選任について	同意
議案第66号	竹田市公平委員会委員の選任について	同意
議案第67号	竹田市公平委員会委員の選任について	同意
議案第68号	竹田市公平委員会委員の選任について	同意
議案第69号	竹田市教育委員会委員の任命について	同意
議案第81号	市道路線の廃止について	可決
議案第82号	市道路線の認定について	可決

● 請願・意見書案

議案番号	件名	結果
請願第1号	義務教育費国庫負担率2分の1復元に関する意見書の提出を求める請願	採択
請願第2号	2025年度大分県最低賃金の改正等に関する意見書の請願	採択
意見書案第1号	義務教育費国庫負担率2分の1復元等に関する意見書	可決
意見書案第2号	2025年度大分県最低賃金の改正等に関する意見書	可決

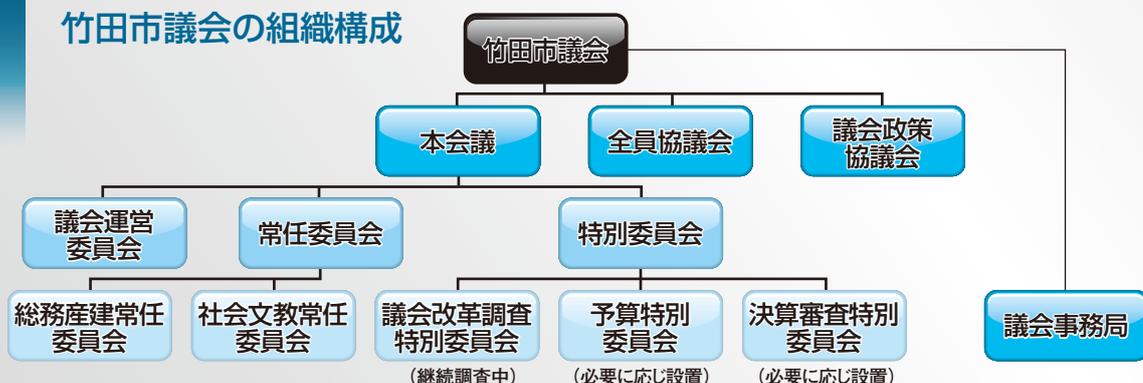
議会構成

今号では竹田市議会の組織構成について、掲載致します。

常任委員会は、令和7年の改選から議員定数の改正（16名→14名）に伴い、2つの委員会へと再編されました。

改選前		改選後	
● 総務常任委員会	6名	● 総務産建常任委員会	7名
● 産業建設常任委員会	5名	● 社会文教常任委員会	7名
● 社会文教常任委員会	5名		

竹田市議会の組織構成



議会運営委員会

4名

所管：議会の運営に関する事項、議長の諮問機関



委員長
佐藤 美樹

議会運営委員会は、市議会全体の円滑、かつ公正な運営を担う重要な役割を果たしており、会議の進め方や日程調整、議事の整理など、多岐にわたる調整を行っています。議事進行のルールづくりなど、見えにくい部分ではありますが、議会の骨子を担っています。

今期より議員定数を14人としたことに伴い、常任委員会を3つから総務産建常任委員会と社会文教常任委員会の

2つに編制し直しました。これは平成17年の市町合併による新市議会発足以来の再編となります。竹田市議会としての新境地であり、より活発で深い議論が展開されるよう議会運営のあり方を探求してまいります。また、建設的で規範性を持った議会運営に尽くす所存でございます。引き続き、皆様のご意見やご関心を市議会にお寄せいただきますようお願い致します。

副委員長 熊野忠政

委員 工藤忠孝・佐藤市蔵

総務産建常任委員会

7名

所管：総務課、総合政策課、情報推進課、財政課、税務課、会計課、公平委員会、監査委員、選挙管理委員会、固定資産評価審査委員会、消防本部、農政課、畜産振興課、農林整備課、商工観光課、建設課、上下水道課、農業委員会の所管に属する事項並びに他の常任委員会の所属に属さない事項



委員長
工藤 忠孝

総務産建常任委員会は、総務、財政、企画、防災、建設、農林業、商工観光など、多岐にわたる所管を担い、山積する様々な課題に取り組んでおります。今後も市民の視点に立ち、活発な議論を重ねてまいります。竹田市が抱える人口減少や高齢化、地域経済の活性化、防災、減災対策といった課題に対しまして、委員会の皆さんと力を合わせ、

執行部との建設的な議論を通じて、実効性のある政策提言を行っていく所存です。特に本市の豊かな自然や歴史文化を活かした地域づくり、そして安全・安心な暮らしの実現に向け全力で取り組んでまいります。

市民の皆様には、忌憚のないご意見をいただけますようお願い致します。

副委員長 阿南智博

委員 中村光三・副田富雄・熊野忠政・本郷敦子・阿部雅彦

社会文教常任委員会

7名

所管：市民課、保険健康課、環境課、人権・部落差別解消推進課、福祉事務所、保育所及び教育委員会の所管に属する事項



委員長

賀籠六 めぐみ

社会文教常任委員会は、市民窓口、国民健康保険、地域医療、健康増進、母子保健、保育、社会福祉、高齢者・介護福祉、環境衛生、人権、教育、スポーツ、文化など多くの所管を担っています。市民生活の基盤となる所管事項で山積する課題に対し、委員会での議論を深め、慎重に審議し、政策提言に繋げていきます。まずは、7月1日に再開となった竹田市立こども診療所

については、運営状況の確認や課題の共有を図りながら、四半期ごとに行われる運営委員会の協議内容を注視していく所存です。少子高齢化が加速するなかで本委員会に与えられた責務は重く、重要な役割を担っています。市民生活に密接に関わる本委員会として、様々な角度から議論して執行部に提言してまいります。市民の皆様のご意見をお願い致します。

副委員長 池見 傑

委員 上島貞子・後藤建一・佐藤市蔵・佐藤美樹・山村英治

議会改革調査特別委員会

6名

所管：議会改革に関する事項



委員長

阿南 智博

令和6年は議員定数をはじめとして様々な観点から検討を行いました。定数2名減はやむを得ないとの結論に至り、令和7年4月から市議会議員選挙は定数14名で実施されました。また、これに伴い、常任委員会の編成も検討し、これまでの3常任委員会から総務産建及び社会文教の2常任委員会とする方針を打ち出しました。さらに、誰もが立候補しやすい環境を整えるため、任意制選挙公営制度の導入について議論を重ね、議長を通じて市長に要望し、

実現いたしました。今後も議員定数や常任委員会数などのあり方については、引き続き検証を進めてまいります。今年度は議会基本条例で定める議員の自由な討議による政策立案や立法といった機能の強化を図るため、議員間討議の活性化に向けた取組の強化を目指します。また、市民との意見交換会の手法や、議会中継のあり方、投票率向上の取組などについても調査研究を深めてまいります。

副委員長 熊野忠政

委員 上島貞子・賀籠六めぐみ・池見傑、本郷敦子

議会政策協議会

12名

所管：議案、政策的条例案の策定、政策提言に関する事項



会長

佐藤 市蔵

議会政策協議会は、議長・副議長を除く議員を会員として組織し、執行部から提案された議案、政策的条例案の策定、市長に対する政策提言や議会活動の中で必要と認めたことについて協議、または調査研究を行い、政策提案に結び付ける会議体です。市民との意見交換会等で出された声を市政に反映

させるため、議員個々の専門性を活かし、実行性のある政策提言を行いたいと考えます。また、政策や条例を提案するための調査・研究機関である議員政策研究会を立ち上げて個別の事案を協議し、執行部への政策提言へと繋げてまいります。

副委員長 池見 傑

委員 正副議長を除く議員全員

市民との意見交換会

竹田市議会 × 竹田商工会議所

令和7年7月3日(木)に竹田市議会において、竹田商工会議所の佐藤春三会頭をはじめ16名の役員及び職員と本市の抱える諸問題の共有と将来の地域づくりの方向性について、意見交換を行いました。



主な内容

- 物価高騰、労働人口の減少、域内消費の縮小等、厳しい状況下における中小・小規模事業者の持続的な発展に資する施策等について（経済振興に係る市長要望の共有・連携）
- 電子商品券の利用の幅を広げる「デジタル地域通貨」の調査研究について
- 外国人技能実習生等受入事業の取組状況の共有と市内の雇用・労働環境の諸課題について



令和7年第3回(9月)定例会日程のお知らせ

令和7年第3回(9月)定例会の議会日程(予定)をお知らせします。

- 8月27日(水) 議会運営委員会
- 9月 1日(月) 本会議 (議案の上程、諸報告ほか)
- 12日(金) 本会議 (一般質問)
- 16日(火) 本会議 (一般質問)
- 17日(水) 本会議 (一般質問)
- 19日(金) 本会議 (質疑、委員会付託ほか)
- 予算特別委員会
- 24日(水) 決算審査特別委員会
- 25日(木) 決算審査特別委員会
- 26日(金) 総務産建常任委員会
- 29日(月) 社会文教常任委員会
- 10月 1日(水) 議会運営委員会、全員協議会
- 本会議 (委員長報告・採決ほか)

※会議の日程等は変更になる場合があります。
※その他、議会情報は竹田市議会ホームページをご覧ください。



暑中お見舞い申し上げます

公職にある者による暑中見舞いなどの挨拶状や初盆のお供物等につきましては、公職選挙法により禁止されております。

ご理解いただきますようお願い申し上げます。
新仏のご冥福を心よりお祈りいたします。

竹田市議会

写真提供者

田北 敏彦 氏 1957年1月生まれ 竹田市久住町在住

Profile

- ・大分県美術協会写真部会員
- ・竹田市退職教職員写真クラブ「やまなみ」会員
- ・竹田市文化財保護調査委員
- ・竹田市人権擁護委員

「市議会だより」についてのご感想をお寄せください。
頂いたご感想を今後の誌面構成等に活かしてまいります。

発行：竹田市議会
編集：竹田市議会だより編集委員会
竹田市大字会々々1650番地
TEL：0974-63-4813



「たけた市議会だより」は、環境に配慮した再生紙を利用しています。

竹田市議会